

# 入魂

## 第23号

### I 母校硬式野球部顧問就任ご挨拶

平成15年卒 木村 優介

「お前は高校野球の監督になれ」「母校に戻ってきて甲子園へ行け」

当時高校2年生の時に、わが恩師(中山 現日立一高監督)からこの言葉を受け、約20年の月日が経った。この言葉を胸に野球と向き合い、教員になり、今年3月末に母校水戸一高への異動が決まった。



久しぶりに入る教室、景色、そしてグラウンド。何とも言えないこの高揚感に幸せを感じるとともに、この日までに私に関わってくださった方々に心からの感謝の念を抱いた。

「水戸一高を甲子園へ」この想いは私の生きる原動力でもあり、達成しなければならない理由として2つの事由がある。1つは、多くの人々が水戸一高の甲子園出場を望んでいるということ。そして水戸一高が甲子園に行けば街が盛り上がり多くの人々が笑顔になる。だから甲子園に行くのだ。

そしてもう1つの事由は、水戸一高が昭和29年に甲子園出場したときのエースであった故橋本先輩との約束だからである。プロ野球の道に進んだ橋本氏は私の選手時代にもよくグラウンドに寄り、私を可愛がってくださった。「木村、早く水戸一高へ戻ってこい」と声をかけ続けてくださった。体の不調にも拘わらず、中山先生とともに、プロ野球西鉄ライオンズで名をはせた中西太氏に会わせてくださったこと、今でも鮮明に覚えている。

この2つの事由が私が水戸一高を甲子園へ導かねばならない理由である。これは宿命であり必然である。心願成就のためならば自分の人生の全てを捧げる覚悟である。

今現在顧問として毎日グラウンドで指導に当たらせていただいている。私が結城一高監督時代、当時は竜ヶ崎南高で監督していた竹内監督と合同チームで熱く野球をしていたことを思い出しながら毎日子供たちと向き合っている。

今後も少しでも多くの人々に水戸一高野球に興味を持ち、応援したくなるようなチーム作りを行ない、日々子供たちとともに成長していきたい。甲子園出場を現実にし、多くの人々の笑顔を拝見し、故橋本氏と元水府倶楽部幹事長故山野氏の墓前への報告を早く実現させたい。

#### 球歴

##### 水戸一高時代

1年次(藤田監督)  
1年次より試合出場  
2年次(中山監督)  
12年ぶり春季県大会出場  
主将 2回戦敗退

##### 筑波大学時代

選手時代A~Cチーム全て経験  
3年次 新人ヘッドコーチ  
4年次 Bチームヘッドコーチ  
10年ぶりリーグ優勝  
神宮大会出場

##### 水戸一高コーチ時代(2年間)

春季県大会出場1回  
夏ベスト16(2回)  
秋季大会ベスト8  
21世紀杯茨城県代表校推薦

##### 結城一高監督時代(5年間)

夏5年ぶり1回戦突破  
(選手10名)

##### 水戸農高監督時代(5年間)

夏ベスト32  
10年ぶり春季県大会出場  
水郡地区大会優勝1回  
準優勝1回



開会式 令和元年7月6日(土)

蒲原 博 (H30年度硬式野球部父母会会長)

梅雨明け前の7月中旬、一塁側スタンドでゲームセットのサイレンを聞いたのは、もうずっと前のことのような気がします。ジリジリと暑い夏が来る前に、今年の水戸一高硬式野球部の夏は終わってしまい、戸惑いと落胆が入り混じった複雑な気持ちでスタンドを後にしたことを覚えています。

現在、全国選手権大会が行われており、連日、球児の活躍に甲子園球場が沸いています。甲子園出場チームはやはり流石で、絶好のチャンスや劣勢の終盤にホームランが生まれることがしばしばです。ホームランは味方ベンチとスタンドを活気付けてくれる魅力があります。

そんな魅力的なホームランが、今年、一回戦の水海道一高戦で飛び出しました。お互いランナーを出しながら無得点の3回に、四球の古谷君を一塁に置いて、4番黒崎君の打球は大きな放物線を描きバックスクリーンを直撃しました。



バックスクリーン直撃のツーランを放った黒崎君



最後まで力投した片根君

その瞬間、三塁側スタンドの水戸一高応援団は歓喜の渦に包まれました。グラウンドの選手達もこの先制ホームランで一気に勢いづき、ゲームの主導権を掴みました。その流れに乗って選手達は、お互いを鼓舞するように声を出し続け、6回に橋爪君の左中間二塁打に続き吉川君のライト前タイムリーが出て、中押しの3点目が入りました。先発投手の片根君は粘り強いピッチングを続け、3回を除き毎回ランナーを背負いながらも完封勝利を

収めました。

二回戦の相手はリベンジを果たしたい葵陵高校。前年の春季地区代表決定戦と秋季地区代表決定戦で、いずれも終盤持ちこたえられずコールド負けした相手です。4回表の水戸一高の攻撃が終わって1-3。ところが、4回ウラに4点を奪われ1-7。この時、多くの保護者の脳裏には悪夢がよぎったのではないのでしょうか。『このままズルズルと行ってコールド負けか・・・』しかし、誰もそんなことは口に出さず懸命にメガホンを叩いて応援を続けます。すると、5回に1点追加し、6回には押し出し2つとタイムリーヒットなどで、何と同点に追い付きました。この中盤の追い上げにチームとしての成長が窺え、選手達を大変頼もしく、そして誇らしく感じました。

また、観戦していた知人によると、この6回の応援が凄かったらしく、一塁側内野スタンドでは吹奏楽部のアルプスに合わせた観衆の皆さんの手拍子が、スタジアムに響き渡っていたそうでした。

しかし、6回は同点止まりで追い越すことができず、8回ウラに決勝点を与え、春季大会・水無月杯に続き1点差での惜敗という結果で選手権大会を終えました。

この1点差には勝利を掴む難しさがあると実感しました。ただ、言い方を換えれば、終盤崩れない野球ができるチームに、成長できていたと考えます。是非、後輩諸君には1点差を勝ち切って念願の県大会、さらには水戸一高硬式野球部の大願である四度目の甲子園のステージを目指して、自信と誇りを持って邁進してください。

最後になりますが、小島部長、竹内監督、顧問の先生方、コーチのご指導に大変感謝申し上げます。水府倶楽部、三の丸倶楽部の皆様ご支援いただきありがとうございました。

この伝統ある水戸一高硬式野球部の活動に携わることができ、2年3か月の間、部員達と一緒に真摯に野球と向き合うことができました。ありがとうございました。



開会式の入場行進





**一回戦** 令和元年7月9日(火)ノブルホームスタジアム水戸  
 天候:曇  
 試合時間:2時間23分(8:57~11:20)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
水戸一	0	0	2	0	0	1	0	0	0	3
水海道一	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

バッテリー:片根-古谷

本塁打:黒崎(3回ツーラン)

二塁打:橋爪(6回) 片根(8回)

単塁打:豊田(4回) 吉川(6回) 佐次2(7回、9回)

出場メンバー

1番	センター	佐次	(2年)
2番	ショート	折橋	(2年)
3番	キャッチャー	古谷	(2年)
4番	ライト	黒崎	(3年)
5番	レフト	蒲原	(3年)
	7回代打	小沼	(3年)
	7回レフト	田中(友)	(1年)
6番	ピッチャー	片根	(3年)
7番	セカンド	橋爪	(3年)
8番	ファースト	吉川	(3年)
9番	サード	豊田	(2年)



**二回戦** 令和元年7月13日(土)ノブルホームスタジアム水戸  
 天候:曇・晴  
 試合時間:2時間51分(8:56~11:47)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
水戸一	0	0	0	1	1	5	0	0	0	7
水戸葵陵	0	0	3	4	0	0	0	1	X	8

バッテリー:片根(~4回2/3)・石井(~4回2/3)・片根-古谷

二塁打:古谷(5回)

単塁打:古谷(3回) 佐次3(4回、5回、6回) 田中(友)(6回) 片根(6回)

出場メンバー

1番	キャッチャー	古谷	(2年)
2番	ファースト	吉川	(3年)
	6回レフト		
3番	センター	佐次	(2年)
4番	ライト	黒崎	(3年)
	6回サード		
5番	レフト	蒲原	(3年)
	4回2/3ピッチャー	石井	(1年)
	4回2/3レフト	田中(友)	(1年)
	6回ライト		
6番	セカンド	橋爪	(3年)
7番	ピッチャー	片根	(3年)
	4回2/3レフト		
	4回2/3ピッチャー		
8番	ショート	折橋	(2年)
9番	サード	豊田	(2年)
	6回代打	小沼	(3年)
	6回ファースト		





## Ⅲ-1 令和元年度前半活動報告

前会報第22号発行（平成31年3月1日）以降の活動状況についてご報告します。

（1）去る6月9日（日）に令和元年度の総会を開催し、事前に会員の皆様へお届けした平成30年度の活動内容と決算報告を承認いただきました。

（2）令和元年9月1日付けで会報第23号をお届けしました。

巻頭記事では、4月に本校の体育教師として水戸農業高校から転任され、野球部の顧問に就任された木村優介先生からご挨拶をいただきました。先生は硬式野球部のOBで主将内野手として活躍され、平成15年に卒業して筑波大学硬式野球部でも活躍されました。また、新たにコーチに就任された綿引治朗さん（平成26年卒）にもご挨拶をいただきました。トピックス記事として、昨年旧里美村で念願の農業経営を実現した平成22年卒の石川歩さんにその経緯を紹介いただきました。味の濃いおいしい有機栽培野菜は大好評でお客様も徐々に増えつつあります。現地やネットで購入できますので記事記載のWSで確認ください。これからも折に触れ野球部OBの活躍を紹介していきます。シリーズ記事「大学野球を目指す後輩部員たちへ」では、現在神戸大学の硬式野球部で活躍中の水嶋啓仁さんに投稿いただきました。4年前の夏の茨城大会2回戦下館一戦でサヨナラ勝ちとなるこの日3本目のヒットをライト前に放ったことは記憶に新しいところです。

（3）7月末に引退した3年生部員の父母会および関係者の皆様へ入会案内を配布し、5名の方々に入会いただきました。現在の会員数184名、元会員（退会、2年以上会費未納）は134名、計318名です。

（4）今年度分の野球部支援として、幹事会で承認された以下2件について会費から支出予定です。

①コーチ謝礼2名分12万円

②ビデオ編集およびデータ集計解析用パソコン更新 約20万円

（5）今春の地区代表決定戦では残念ながら延長10回0-1で桜ノ牧高に惜敗しました。夏の茨城大会では、一回戦でエース片根君の好投と4番黒崎君のバックスクリーン直撃ツーランで水海道一に勝利したものの、2回戦では7-8で水戸葵陵に惜敗し、またしても私立の壁を破れませんでした。しかし、秋季地区大会のシードを決めるジュニア大会では、緑岡、友部を下し、さらにライバルでもある水戸商に3-2、水戸啓明に1-0で勝利してブロック優勝しました。これで水戸地区ベスト2となり、上位シード権が確定しましたので、9月中旬から始まる県大会出場に向けて大きく前進しました。応援帽子を着用して応援いただいた会員の皆様ありがとうございました。

## Ⅲ-2 企画記事 『ノーシードから甲子園出場へ—新しい歴史を創ろう』

令和元年の全国高校野球選手権にはノーシードから勝ち上がった県立の普通高5校が出場した。その躍進の要因は何か？それから水戸一高は何を学ぶべきか？について、県予選における関連記事と各校のホームページを調査抽出しまとめてみた。少子化と令和3年度からの中高一貫校化により、部員の減少が懸念されるため、その対応が迫られている。部員たちの意識の変化、会員の皆様からの建設的なご意見を期待する。

## 1. 静岡県立静岡高等学校

創立は水戸一高と同じ明治11年（1878）で進学実績も似ている。これまで選抜も含めて甲子園へ41回出場して優勝も経験し、明治神宮大会へも3回、国体へも1回出場するなど輝かしい実績を誇る文武両立した名門校である。水戸中（水戸一）は昭和4年（1929）の選手権で対戦し1-5で敗れている。

昨秋の地区予選では2回戦で敗退したものの静岡県独特の敗者復活戦で優勝して県大会へ出場し、3位決定戦に勝ち、中部地方大会へ出場した。しかし、今春の地区大会では初戦（2回戦）で敗退し、全国選手権県予選のシード権を得られなかったが、準々決勝以降は2点差以内の接戦にしぶとく勝ち上がり、甲子園出場を決めた。7試合で25犠打、失策3と安定した堅実な戦いぶりを示した。県立校ながらこのような輝かしい戦績を残している要因の一つは、募集定員320名の約3%、すなわち約10名の中

学球児を募集できる野球部のみの学校裁量枠があることであろう。それは県内外で活躍するOBの強い熱意と支援に支えられている。

## 2. 愛媛県立宇和島高等学校

開校は明治9年（1876）、創立は明治29年（1896）である。甲子園出場は今年で12回目（選手権9回、選抜3回）である。

昨年の選手権県予選では1回戦で今治西に敗退（2-8）し、昨秋も県大会へ出場したものの1回戦で西条に敗退（1-4）している。しかし、今春の県大会では準決勝まで勝ち進み、今治西に1-8で敗れたものの大きく躍進した。そして今夏は3回戦3試合までに1失点で勝ち上がり、今治工との準々決勝を僅差（4-3）で制して自信を付け、決勝で強豪私立の松山聖陵を下して29年ぶりの甲子園出場を果たした。

最低でも春秋の県大会へ継続して出場できる力を付けなければ“甲子園”が見えてこないのではないだろうか。

## 3. 長野県立飯山高等学校

長野県北部の飯山市あり、開校は明治36年（1903）である。冬場は雪を固めて練習する。普通科以外に探求科（自然科学、人文科学）とスポーツ科を設けており、後者では3年間でスポーツ論3単位、専攻実技9単位を必修としている。平成22年には文科省からスーパーサイエンス校にも指定されるなど魅力ある学校づくりをしている。

昨秋の県大会はベスト8に残り、選抜21世紀枠

の長野県推薦校に選ばれた。高く評価されたのは、左腕と140キロ右腕の二枚看板である。今春の地区大会では初戦（2回戦）で敗退したため、今夏はノーシードではあったが、長野県では30年ぶりとなる県立校同士の決勝戦では延長10回5-4のサヨナラで伊那弥生が丘を退け、春夏通じて初の甲子園出場を果たした。この大会では、彼らに加えて別の右腕も2試合に登板しきっちりと仕事をした。このように、安定感のある3人の投手陣がそれぞれに負担を軽減しあい、試合をつくれたのが大きかった。加えて冬場に強化してきた打撃が機能した。バットを強く振る姿勢はその後に変えず、低い打球へと意識を修正してきたことが、好投手にも振り負けない結果につながった。本塁打こそ出なかったが、安打の3割が強い打球で左・右中間を破るような長打になった。春までクリーンアップを任されていた主将が1番に入り、強打で相手投手にプレッシャーを掛けていく攻撃のパターンができ、下位までつなげる打者が並び、大きな穴がなくなった。安定した投手力と、好投手にも振り負けない打線とあり、これまで壁になってきた強豪私立にも力勝負を挑めるだけの力を付けていた。

スポーツ科学科を設けた魅力のある学校づくりによる部員獲得と、目的と目標を明確にした練習が実を結んだ結果といえるであろう。

#### 4. 徳島県立鳴門高等学校

明治42年（1909）創立で、教科を人文と数理に分けた特色ある募集をしている。選手権大会出場は平成24年（2012）初出場から今年で7回目であり、選抜にも1回、国体にも2回出場している。今夏はノーシードであったが、昨秋および今春の県大会ともにベスト8入りしており、

安定した力を示している。常に県大会出場できるくらいの力が必要である。

#### 5. 佐賀県立佐賀北高等学校

昭和24年創立でスポーツと芸術（音楽・美術・書）教育に力を入れている。選手権は平成12年（2000）の初出場以来、今夏で5回目である。平成19年（2007）夏に全国優勝したときのエースが監督となり、チームを率いている。昨秋、今春ともに県大会でベスト8入りできず、シードされなかったが、今夏は5試合で本塁打0ながら失策2、犠打27で結束した堅実な守りの野球を実践。4試合を一人で投げぬいたエースは175cm、64kgで特別な体格ではない。

#### 6. まとめ

（1）まずは自らの努力で最低限の結果（県大会出場）を出し、38,000人の知道会会員はもとより、一般市民の方々にも応援いただける機運を作り出すことが必要。結果が出れば潜在的応援者は自然に顕在化し、具体的な支援行動に出てくれる。

（2）目的と目標を明確にした量より質の練習による守備力強化（負けない野球）。

（3）今後予想される部員数減少に先回りした魅力ある学校と野球部作りによる球児および保護者の不安解消。（中高一貫校、特色選抜、学校裁量枠）

（4）情熱あるOBの力を結集した支援力の増強。甲子園出場は組織力の結果でもある。創立141年、創部128年の水戸一高にできないはずはない！そろそろ飛田稲洲大先輩の業績と3回の甲子園出場に加わる新しい歴史を創るべき時期に来ている。



## Ⅳ シリーズ「大学野球を目指す後輩部員たちへ」平成28年卒 水嶋 啓仁

平成28年卒、神戸大学硬式野球部三回生の水嶋啓仁です。現在は、同大学の硬式野球部に所属しており、チームの目標であるリーグ優勝に向けて日々練習に励んでいます。



神戸大学硬式野球部は、近畿学生野球連盟に所属しているのですが、今回、本リーグの魅力について紹介させて頂こうと思います。本リーグの最大の魅力は国公立大学と私立大学の力量が拮抗しているという点だと考えています。現在、神戸大学硬式野球部は一部に所属しているのですが、公立の大阪市立大学、国立の和歌山大学も所属しており、私立の奈良学園大学(旧奈良産業大学)、大阪工業大学、阪南大学と対等に渡り合っています。実際、ここ5季の優勝校を見てみると、和歌山大学2回、大阪市立大学1回、奈良学園大学1回、大阪工業大学1回と実力が分散していることが分かります。ではなぜ、私がこの点に魅力を感じているのでしょうか。理由は2つあります。1つ目は明治神宮野球大会への出場の可能性を持った状態で日々の練習に取り組めることです。後

輩の皆さんが目標にしている大学は、リーグの他の大学は全て私立大学ということが少なくないです。もちろん、そのようなレベルの高いリーグでプレイすることも大学野球の醍醐味の一つです。しかし、明治神宮野球大会に出場するという点に関していえば、神戸大学硬式野球部は非常にモチベーション高く練習に取り組むことができます。2つ目は国公立大学間の交流が非常に盛んであるということです。特に、大阪市立大学は同じ旧三商大ということもあり、定期戦を行うなどして、選手間の交流がとても多いです。同じような環境で野球をしてきた他大学の選手とまで切磋琢磨できるリーグが本リーグだと考えています。

ここまで、所属リーグの説明をしてきましたが、

後輩の皆さんには甲子園出場という目標があると思います。今はその目標に向かってどうすれば甲子園に出





場することができるのか全力で考えて欲しいと思います。全力で高校野球を楽しみ、高校生活が終わった時に、皆さんの心の中にまだ野球を続けたいという気持ちが少しでもあるならば、私は皆さんに是非神戸大学硬式野球部の門を叩いてほしいと思ってお

ります。

最後になりますが、日頃より三の丸倶楽部の皆様にはご支援いただき厚く御礼申し上げます。これからも、何卒ご指導・ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。

## V コーチ就任ご挨拶 平成 26 年卒 綿引 治朗

三の丸倶楽部の皆様方には、日頃から多大なるご支援をいただき、この場をお借りしまして心から御礼申し上げます。

今年の4月から茨城大学の大学院に進学するにあたり、母校へ何か恩返しはできないかということで竹内監督やOBの方々と相談し、現在コーチという形で野球部に関わらせていただいております。茨城大学では4年間硬式野球部で活動をしました。大学では、野球の技術的な面だけでなく、指導方法や体づくりについても学んでいます。それらを活かして、部員たちが少しでも自己の力を伸ばし、一つでも多くの勝ち星を挙げられるようにと日々邁進しております。

夏の大会では水戸葵陵高校に惜敗を喫しました。しかし、そこには水戸一高の粘り強さやここぞという場面でのすさまじい集中力を感じることができました。現在の新チームには折橋をはじめ、多くの夏の経験者がいます。あの悔しさをバネに、どんな険しい戦いにも勝ち切れるようなチームになっていくために、私自身選手一人ひとりと真剣に向き合っていきたいと思っております。

2年間という短い間ではありますが、水戸一高野球部のために一所懸命に取り組んでいきますので、これからもご指導・ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

## VI Topic 投稿記事 『泥にまみれる - 野球から野菜栽培へ』平成 22 年卒 石川 歩

小中高の10年間は野球に明け暮れました。最後の夏の大会は初戦(2回戦)1点差で惜敗して終わりました。それから猛勉強して早稲田へ進学し、3年終了後休学して1年間カナダでワーホリ(WorkHoliday)、その後アメリカ、メキシコ、グアテマラ、キューバを旅行して様々な経験をしました。卒業後は企業で海外事業関係の仕事を担当しましたが、企業組織の息苦しさから9ヶ月で退職。その後農業で自立することを決意して日本農業実践学園(水戸)1年コースで農業の基礎を学び、さらに国際農業者交流協会(JAEC)の農業研修プログラムに参加してオランダの有機複合農家で1年間研修しました。帰国後は常陸太田市の農園でアルバイトをしながら就農準備を進め、昨年からは常陸太田市の旧里美村で野菜作り農場を始めました。中学生になるくらいまで祖父母が常陸太田駅前八百屋をしていたこと、祖母が里美村出身であったこと、私を身ごもっていた母は里美で陣痛を起こしたなど、里美が

私を呼んでいたのでしょうか。

里美は山間地で条件が不利と言われていますが、水と空気がきれいで、朝晩の寒暖差もあり、ダイナミックな自然の中で味の濃いおいしい野菜が出来ます。イノシシやハクビシンには悩まされますが…。現在はトマト(ミニ、中玉、大玉)、きゅうり、なす、オクラ、ニンジン、じゃがいも、枝豆、ネギ、モロヘイヤ等々約40種類の野菜を無農薬で栽培しています。売り先は地元のスーパーやイベント会場での販売の他、「ポケットマルシェ」というアプリでワンクリックでご購入できます。

農協や卸先にもって行って終わりの農業ではなく、お客さんと直接つながり、コミュニケーションを取り合いながら品質の向上に努めていきたいと思っています。まだまだ、1年目で未熟なところばかりですが、高校野球時代に培った「泥にまみれる」精神で頑張りますので、ご支援いただければ幸いです。

ホームページ <https://www.ayumuagri.com/>

ポケットマルシェ [https://poke-m.com/producers/42073?related\\_article\\_type=producer](https://poke-m.com/producers/42073?related_article_type=producer)



# Ⅶ 硬式野球部 名簿

(敬称略)

部長 小島 淳 監督 竹内 達郎 顧問 太田 泰助 木村 優介

## 『 決意の言葉 』

超高校級のキャプテン

主将



折橋 秀哉  
佐野中  
内野手

一振りで勝利を手繰る寄せる打者になる



青山 拓矢  
多賀中  
内野手

チームの絶対的な精神的支柱



川勾 恒太郎  
茨城大附属中  
内野手・外野手

何事にも妥協しない



見坂 恒輝  
八郷中  
外野手

泥臭く魅せるプレイ



古谷 崇晃  
下館中  
捕手・投手

県 No. 1 の選手になる

副主将



佐次 泰晟  
下館中  
投手・外野手

体を鍛え力強いプレイをする



田中 広海  
水戸一中  
内野手

常に熱い全カプレイ



豊田 楓斗  
坂本中  
内野手

下半身を強化しブレないフォームを身に付ける



前田 知哉  
友部二中  
投手・外野手

フルスイングを貫き通す



宮野 礼門  
茨城大附属中  
内野手

<< 二年生

一年生 >>

チームの頼れるエースになる



石井 陽向  
日高中  
投手

タフなプレイヤーになる



栗林 修敬  
佐野中  
外野手

強靱な肉体を手に入れる



堺堀 史也  
鹿野中  
捕手

柔軟なプレイヤーになる



佐藤 航介  
田彦中  
外野手

力強い選手になる



田中 友暉  
茨城大附属中  
外野手・捕手

粘り強いバッティングをする

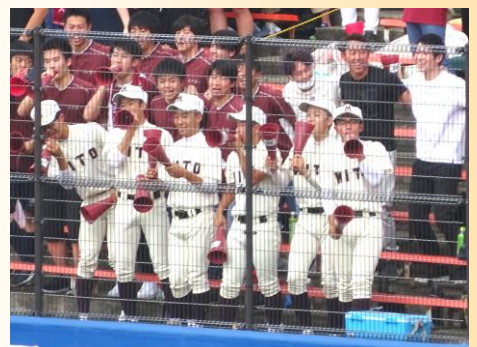


野々下 光  
那珂湊中  
内野手

気持ちで負けない



檜山 駿太  
結城中  
投手・外野手





## Ⅷ 試合結果・予定

平成31年度・令和元年度前半 公式戦・準公式・定期戦結果				
月	日	大会	球場	結果
1	2	豚汁会	水戸一	●4-6水府倶楽部(6回終了)
4	15	春季地区大会一回戦	ノブルホームスタジアム水戸	○12-2玉造工(5回コールド)
	16	" 代表決定戦	"	●0-1水戸桜ノ牧(延長10回)
6	1	市内大会一回戦	水戸啓明	●5-6水戸啓明(延長11回)
7	9	茨城大会一回戦	ノブルホームスタジアム水戸	○3-0水海道一
	13	" 二回戦	"	●7-8水戸葵陵

以下新チーム

8	16	ジュニア大会一回戦	友部高	○2-0緑岡
	17	" 二回戦	"	○9-0友部(7回コールド)
	20	" 三回戦	"	○3-2水商
	22	" ブロック決勝	笠間市民	○1-0水戸啓明

平成31年度・令和元年度前半 練習試合結果					
月	日	球場	結果	備考	
3	10	波崎柳川	●8-15清真 ●6- 8波崎柳川		
	17	牛久栄進	○19- 3牛久栄進 ○13-12 "		
	21	佐竹	○15-4佐竹 ○ 8-0 "		
	23	水戸一	○12-3取手二 ○ 6-5安積	7回終了 福島県立	
	24	勝田高	●7-11勝田		
	26	水海道一	○9-4水海道一 ●5-8 "		
	28	水戸一	○14-8花巻農 ○13-7 "		
	29	水戸一	○7-3弘前・柏木農 ●2-3佐久長聖	青森県立 長野・私立	
	4	2	北茨城市民	○8- 6磯原郷英 ●3-11 "	
		4	石岡一	● 5-14石岡一 ○12- 0 "	
6		桐生工	○6-2沼田 ○6-3桐生工	群馬県立 "	
28		勝田工	●5-9勝田工 ○5-4 "		
5	4	土浦一	●0-7土浦一 ○3-1 "	5回終了 一年生主体	
			○9-4 "		
	5	水戸一	○7-4宇都宮 ○5-1 "	栃木県立	
	12	水戸一	○ 5- 3緑岡 ○15-12 "		
	13	土浦湖北	● 1-2土浦湖北 △ 1-1 "	一年生主体	
			○ 3-1 "		
			○11-1 "		
	19	太田一	○10-3矢板中央 ○ 5-4太田一	栃木県立	
	26	つくば国際	○ 5-3つくば国際 ○10-5 "		
	6	8	茨城東	○6-1茨城東 ○5-4 "	1・2年生
9		水戸一	○18-1佐原 ○ 6-4 "	千葉県立	
25		常総学院	●2-14常総学院		
29		取手松陽	△2- 2銚子商 ●0-12取手松陽	千葉県立	

以下新チーム

8	3	石岡一	●3-17石岡一 ●4-21石岡一	
	9	水海道二	○9-1水海道二 ●4-5 "	
	10	土浦三	●7-12土浦三 ○7- 4 "	
	12	慶応高	○ 8- 2花巻北 ●11-20慶応	
	14	しらすわ グリーンパーク	○ 6-3安積 ○11-8 "	福島県立
	25	勝田工	△4-4勝田工 ○5-1 "	

令和元年度後半 試合予定 (令和元年8月16日現在)			
(V: 相手高G, H: 水戸一高G)			
年	月	日(曜)	大会・試合・会場等
令和元年	8	27(火)	秋季地区大会組合せ抽選会
		29(木)	秋季地区大会(~9月2日(月))
	9	8(日)	練習試合 対牛久栄進(V)
		15(日)	秋季県大会(~9月22日(日)) (練習試合 対つくば国際(V))
		6(日)	練習試合 対江戸川学園(V)
	10	10(木)	秋季関東大会組合せ抽選会
		12(土)	練習試合(木内杯(V))
		19(土)	秋季関東大会(~10月27日(日)) 於群馬県
		25(土)	水戸地区一年生大会(~10月30日(水))
	11	10(日)	練習試合 対中央(V)
17(日)		水商定期戦	
令和2年	1	2(木)	水府倶楽部定期戦・豚汁会(H)
	3	14(土)	練習試合解禁日

**緊急速報 秋季県大会出場が決定しました！  
地区代表決定戦 8/30(金) 茨城 2-5 水戸一〇**

### 三の丸倶楽部

顧問：稲葉節生 (S38年卒元茨城県教育長)  
会長：鬼澤邦夫 (S38年卒常陽銀行特別顧問、  
知事会会長)

事務局長：森利克 (S38年卒)

幹事：  
照沼貞夫 (S47年卒、H20年卒父母会)  
池永充宏 (H23、24年卒父母会)  
船橋信正 (S63年卒水府倶楽部)  
飯田芳久 (H元年卒)  
馬場威彦 (H30年卒父母会会長)

////// 会員を募集しています //////////////////////////////////////  
◇水府倶楽部(野球部OB会)及び現野球部父母会の会員以外  
どなたでも入会できます。

◇特典：会員帽子(入会時)の配付  
会報(年2回)の送付  
ホームページ「試合予定」、「試合結果」詳細の閲覧など

◇年会費：一口 3,000円(何口でも可)

◇振込先：常陽銀行本店営業部  
普通 2945619  
サンノマルクラブ

◇手続き：氏名、住所、Tel 番号、メールアドレスを下記まで  
ご連絡ください。  
森利克 Tel/Fax : 0294-53-1351  
E-mail : ihm2158@ak.wakwak.com

編集後記  
今年の甲子園は大阪履正社の優勝で終わったが、それ以上に話題となっているのが大船渡・佐々木投手の岩手大会決勝戦での登板回避問題だ。その是非はマスコミで議論を巻き起こし、球数制限の導入問題など、今後の高校野球のあり方へと発展している。「高校球児は甲子園を目指して野球をやっているのだから、決勝戦は無理をしてでも投げるべきだった」という昔気質のプロ野球解説者、「成長期の高校生の投げ過ぎは怪我のリスクが高く、将来を考えれば登板回避は理解できる」という大リーグ経験者、「あまりに肥大化した甲子園大会が問題であり開催方法を根本的に見直すべきである」とするスポーツ評論家、いずれの意見にもそれなりに納得させられる理由があり簡単には結論を見い出せない問題だ。▽昨今「プレイヤーズ・ファースト」という言葉をよく耳にする。「選手の気持ちを最優先する」と思いがちだが、そうではなく「選手(の競技生活)を最優先に考える」ということだそう。もともと野球は投手に大きな負担がかかる競技だ。「プレイヤーズ・ファースト」の考えからいけば、投手の負担軽減対策は必須であり、近いうちに球数制限も導入されるであろう。現在韓国で行われているU18W杯では、今年から球数制限が導入されている。エース級の投手を複数育てる必要があり、部員数の少ない公立高校にはますます厳しい環境になりそうだし、応援する側の意識改革も必要だ。(照)